

# ☆二〇二四年、日本の使命

☆二つの戦争（ロシア・ウクライナ戦争、イスラエル・ハマス戦争）を抱えて迎えた世界の新年。そして戦争への傾斜と政権の腐敗を抱えて迎えた日本の新年。平和憲法の視点から世界と日本のあるべき姿をさぐってみます。

## （一）二つの戦争に終止符を打つ事、ただちに停戦！

◆二〇二二年二月に起こったロシア・ウクライナ戦争、武力による早期決着は不可能に見えます。

◆「いや、可能だ！」と言う人がいるかも知れません。ガザ地区の戦争ではイスラエルの圧倒的軍事力で決着するかに見えます。しかし、終わった後の風景を想像してみてください。瓦礫の山と莫大な命の損失、そして相手への激しい憎悪の感情が残るだけです。平和の風景ではありません。

◆これには、直ちに「停戦」しかありません。そして頭を冷やして、お互いの平和と国民の幸福実現の道を真剣に考えることです。

## （二）日本の姿―戦争への傾斜と政権の腐敗、貧困

◆一方、日本の姿はどうか。戦争は無かったものの、アベノミクスという水ぶくれの失敗経済でGDPは中国やドイツに抜かれ、国民の貧困は深刻です。

◆なのに国は軍事費は過去最大七兆円超も予算請求し、さらに五年で四十三兆円も増やすと言っています。沖縄では完成の見込みの無い辺野古基地建設にジャブジャブお金を使っています。

◆このような危機的状況なのに、政権は政治資金の裏金作りに余念がありませんでした。協力した大企業には余剰資金が五一〇兆円もたまっています。

## （三）「力による解決」ときっぱり訣別を

◆今起きている戦争によって、平和構築に「武力は無力」である事が証明されました。「力による解決」という考えからきっぱりと訣別すべきことをこの戦争は教えています。

◆国連が機能を失った今こそ平和憲法を持つ日本の役割があります。「力による解決」を信奉するアメリカについて行くことを止め、平和のための調停役を積極的に担うこと、これが平和憲法を有する日本の使命です。

◆新しい年の初め、日本は世界の平和と豊かな生活実現に寄与する国へ歩み出そうではありませんか。

二〇二四年一月十四日（日）護憲平和行進（通算683回目）  
浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一―一五  
★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合



日本国憲法

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようとし、全世界の国民が、社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。